

学校自己評価システム取組状況調査報告書

平成28年度

県立学校評価委員会

| 学校名 | 埼玉県立庄和高等学校 | | Bグループ |
|------------|--|---|-------|
| 項目 | 調査の観点 | 取組状況に関する所見 | |
| 目指す学校像 | 目指す学校像は、学校の現状、課題等を踏まえて設定されているか。 | 生徒の学習量や生活実態を学校全体で定期的に把握し、課題を分析している。学校の現状や課題などを踏まえて概ね適切に設定されている学校像である。学校に寄せられる期待に十分応え、学校の特色や強みを生かしたものにできると更に良い。 | |
| 重点目標 | 学校が抱える課題の解決に向け、児童生徒の実態など学校の状況を踏まえて、目標の重点化が図られているか。 | 前年度と比べて重点化が図られ、「進路指導の充実、進学実績の向上」といった学校が目指すところが示されている。目指す学校像の実現に向けて適切なものであり、生徒の実態や学校関係者からの意見や要望などを踏まえた目標となっている。 | |
| 重点目標達成への取組 | 重点目標の達成に向けた組織体制が整備され、適切に機能しているか。 | 1学期末に中間評価を実施し、2学期からの課題解決につなげるなど、学校自己評価システムが組織的かつ円滑に進行できるよう運営されている。評価項目や方策が重点目標を実現するものとなるように整合性を持たせ、より重点化して具体性のあるものにし、組織的な体制を整備していただきたい。 | |
| | 方策は適切に策定され、効果的に実施されているか。 | 課題に基づき、「新進路指導計画の策定・実施」など評価項目の達成に向けた新たな方策が策定されている。分掌・学年等のシートは作成されているが、学校全体の目標と連鎖させて更に組織的に課題の解決に取り組めるようにすることが望まれる。 | |
| | 校長の的確なリーダーシップの下、教職員が共通理解を深めながら組織的に取り組んでいるか。 | 職員会議において、校長が目標体系の連鎖について明確にし、教職員が組織的に教育活動に取り組めるよう共通理解を図っている。校長が的確にリーダーシップを発揮し、学校自己評価システムを生かした学校経営を着実に進めることが期待される。 | |
| | 学校関係者評価等を踏まえて、達成状況や課題を検証し、取組の改善・更新が行われているか。 | アンケートや学校関係者評価などを基に、取組を検証するための情報収集に努めている。前年度の課題を次年度の目標・方策の設定に生かしているが、分掌・学年等と学校全体を連携させ、より組織的なPDCAサイクルを確立していただきたい。 | |
| 特記事項 | | | |